

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：12601
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2013～2015
課題番号：25370159
研究課題名(和文) 中国のテレビドラマにおける日中戦争の表象

研究課題名(英文) Chinese Anti-Japanese Television Drama

研究代表者

劉文兵(LIU, Wenbing)

東京大学・総合文化研究科・学術研究員

研究者番号：70609958

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究代表者は、劉文兵著『中国抗日映画・ドラマの世界』(祥伝社新書、2013)をはじめとする著書(単著)3冊を、日・中・韓3国で刊行し、劉文兵著「日中テレビ交流史の幕開け——初の日中合作テレビドラマ『望郷の星 長谷川テルの青春』試論」(早稲田大学政治経済学部教養諸学研究会『教養諸学研究』第135、136号併号、2014年3月)をはじめとする学術論文(単著)7篇を完成した。また、国際シンポジウムや学会での研究発表計4回、テレビ出演2回、映画出演1回をつうじて、研究成果を社会に向かって広く発信してきた。多くの研究成果をもって、2015年度日本映画ペンクラブ賞・奨励賞を受賞したのである。

研究成果の概要(英文)：The research representative published three books (sole author) in three countries, Japan, China and South Korea, including “World of Chinese Anti-Japanese Movement Films and Dramas” (Shodensha Shinsho, 2013) and “Acceptance of Japanese Films in China” (Chinese Film Publishing Company, 2015), and completed seven scholarly papers (sole author) including “Beginning of Chinese-Japanese Television Exchange History ; Essay of First Chinese-Japanese Joint Production Television Drama “Star in Nostalgia, Teru Hasegawa in Youth” . Also, he has been disseminating his research achievements toward the society through total four times of research presentations at international symposiums and academic conferences, two times TV appearances and an appearance in a film. He received the Japan Film Pen Club Award Encouragement Prize 2015 for his numerous research achievements.

研究分野：表象文化論

キーワード：日中映像交流史 他者の表象 異文化コミュニケーションの可能性 ステレオタイプ 抗日ドラマ 抗日映画 日本人のイメージ 日中合作

1. 研究開始当初の背景

近年、尖閣諸島(中国名:釣魚島)をめぐる領土問題や、政治家の靖国神社参拝などの歴史問題によって、日中関係が険悪になりつつあるなか、打開の糸口として、大衆文化のレベルにおける日中戦争の表象を扱うことが急務である。なぜならば、中国における日本のネガティブなイメージを作り上げた最大の原因が、日中戦争の歴史にあったからである(言論NPOによる世論調査より)。また日中戦争の表象を考察するにあたっては、テレビというメディアを視野に入れることが必要不可欠である。なぜならば、大衆文化の中心であった中国映画が、2000年代になって商業主義に徹した大作路線に走り、中国人が置かれている現実世界から乖離しているのに対し、テレビは世論形成や国民の意識形成に決定的であるからである。テレビ文化のなかでも、とりわけ中国における日本のイメージを規定しているのが、「抗日ドラマ」である。中国の共産党軍やゲリラが日本軍を相手に戦っていた歴史を描くこれらのテレビドラマは2011年に、12シリーズ396話が放映されたほど、中国のテレビドラマにおける主要ジャンルの一つとなっており(2012年9月28日「朝日新聞」より)戦後世代の中国人の歴史観や、日本イメージの形成に多大な影響を与えてきた。一方、近年、日本および中国のテレビドラマ製作において、両国それぞれの独自の歴史観に基づいたナショナルな物語が、自国においてのみ消費されているという内向きの傾向が顕著になっているが、日中双方が何らかの共同作業をつうじて、両国の歴史観におけるギャップを埋めることが必要である。その際に有意義な試みの一つは、日中合作テレビドラマの製作である。こうした観点から、日中合作テレビドラマというジャンルの歴史の変遷と今後の展望についての研究も、日中文化交流のみならず、日中関係のあり方を考えるうえでもきわめて重要な課題である。

映画における戦争の表象、あるいは日中映画交流史に纏わる研究は、拙著『映画のなかの上海』(慶應義塾大学出版会、2004)、『中国10億人の日本映画熱愛史』(集英社新書、2006)、『証言日中映画人交流』(集英社新書、2011)などが豊富であるのに対して、テレビドラマにおける戦争の表象および、テレビ界における日中交流にかんする本格的な研究はいまだ存在しないのが現状である。そのため、当該研究分野の空白を埋める作業が急務である。

これまで応募者は、中国映画における日本人イメージの変遷を、文化表象と権力の関係性について主にプロパガンダの観点から明らかにした。それらの研究成果を踏まえて、歴史の表象や、他者のイメージの問題をさらに掘り下げて分析するべく、視点を体制から民衆のレベルへと移し、1980年代なかば以降、映画に替わって次第に中国の大衆文化

の主流となったテレビというメディアを検証の対象とする本研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、中国のテレビドラマ(日中合作も含める)における日中戦争の表象及び、日本人の表象の変容を跡づけ、テレビというメディアが中国国民の対日感情と歴史観の形成に及ぼした影響を明らかにする。そのうえで、これらのテレビドラマの製作過程における日中の人的交流や、コミュニケーションの実態を、製作に携わる日中のスタッフおよび出演者への取材をつうじて検証することを試みる。

(1)「抗日テレビドラマ」における歴史表象への多角的考察以下は、本研究の目的を、1980年代、1990年代、2000年代以降というように時代を区切って説明していく。【ポジティブな日本人像 1980年代】1978年に「日中平和友好条約」が締結されたことによって、日中関係は一気に改善した。それを受けて、「日中友好」と「反戦」のテーマを二本柱とする歴史ドラマが流行し、そのなかに良心に目覚めた日本兵という新たな日本人像が登場するようになった。一方、日中戦争の歴史を題材とする、日中合作のテレビドラマも盛んに作られた。これらのドラマがどのように中国の視聴者に受容されたか、そして彼らの対日感情にどのような影響を及ぼしたのかを、当時の言説をつうじて明らかにする。【ネガティブな日本人像 1990年代】テレビという新メディアの隆盛とともに、「抗日ドラマ」が量産されることになった。そのなかで残虐性のみ強調された悪しき日本兵のイメージは大衆文化において支配的になってきた。本研究は、「抗日ドラマ」を取り巻く製作環境を緻密に考察することによって、そのような日本人表象におけるネガティブな変化が、いかに中国の国内政治及び、日中関係の変化によってもたらされたのかを検証する。【戯画化された日本人像 2000年以降】日中間の人的交流の増加や、インターネットの普及によって、中国の人々が等身大の日本人に接する機会が増えてきた。にもかかわらず、「抗日ドラマ」における日本人像が逆により戯画的かつフィクショナルなタッチで描かれている傾向は顕著になった。なぜならば、中国のテレビ界が市場メカニズムに支配された結果、視聴者の嗜好に合わせ、アトラクショナルな要素に活路を求めると方向へと転換せざるを得なくなったからだ。したがって、「抗日ドラマ」においても、スーパーマンのような中国兵と好対照をなす、愚かで滑稽な日本兵の表象が、資本制生産様式のもとで拡大再生産されていた。本研究は、市場経済やメディア環境との関係において、日本人イメージの変化をとらえることをも試みる。

(2)日中テレビ交流史の体系的構築。
日中合作テレビドラマは本研究の重要な検

証の対象である。具体的には、初の日中合作テレビドラマ『望郷の星長谷川テルの青春』（1980年）をはじめ、『さよなら李香蘭』（1989年）など、各時代の合作ドラマにおける歴史表象を分析しつつ、これらのドラマの製作に携わった日中のスタッフへのインタビューをつうじて、企画の段階から撮影時に至るまでのコミュニケーションの実態、あるいは同じ合作ドラマ作品に対する日中の視聴者における受け止め方の差異を明らかにすることで日中テレビ交流史という新たな研究分野を構築することを試みる。

テレビドラマをつうじて中国人の歴史認識を考察する点。これまでの学術研究において、テレビというメディアが軽視されてきた感があり、映画研究と比べてテレビ研究は立ち後れている。また、テレビドラマにおける歴史の表象はフィクショナルな性格が強いため、歴史研究の対象からしばしば外されてきた。本研究は、あえてテレビドラマにおける歴史表象を検証の対象とし、中国における日本人イメージの歴史の変遷を辿ることによって、新たな日本人像の構築と受容の可能性を探る。はじめて日中テレビ交流史に光を当てる点。日中合作テレビドラマの背後にあった日中の人的交流や、双方の複雑な政治的・経済的思惑を浮き彫りにする本研究は、日中テレビ交流史研究の礎を築くうえで画期的な意義をもつ。テレビドラマ研究に止まらず、中国の歴史表象の可能性や、日中関係のあり方を示唆することができるという点。中国の「抗日ドラマ」における歴史表象は、映像イメージとして成り立った歴史にすぎない。しかし、物語化された歴史がいつの間にか公式的な歴史として語られるようになるという可能性も否定できない。本研究は、歴史と物語との交錯関係における複雑なパワー・ポリティクスを解明することによって、今後の中国における歴史表象のあるべき方向性を提示したい。一方、日中双方が戦争の歴史を冷静に見つめ直し、対話しながら調和や和解の可能性を探ろうという試みが、ドラマの共同製作の場で可能となった。この点に着目し、良好な日中関係を築くための理想的なひとつモデルを、日中合作テレビドラマに見いだすことも本研究の課題の一つである。

3. 研究の方法

本研究は、次の三つのプロセスをつうじて遂行される。

(1) 中国のテレビドラマにおける日中戦争の表象のイメージ分析。

(2) 日中合作テレビドラマにおける日中戦争の表象のイメージ分析。

(3) テレビ界における日中の人的交流の実証的検証。

これらの作業によって、中国産ドラマにおける歴史表象の変遷や、日中合作という製作スタイルが歴史表象にもたらした可能性、映

像イメージの形成に介在していた両国の人的交流、さらに今後の日中双方の歴史表象のあり方を段階的に明らかにすることを試みた。

本研究の遂行にあたっては、国内の研究機関である東京大学、早稲田大学、専修大学、中国中央テレビ(CCTV)との国際的連携をおこなう。

4. 研究成果

研究代表者は、劉文兵著『中国抗日映画・ドラマの世界』(祥伝社新書、2013)をはじめとする著書(単著)3冊を、日・中・韓3国で刊行し、劉文兵著「日中テレビ交流史の幕開け——初の日中合作テレビドラマ『望郷の星 長谷川テルの青春』試論」(早稲田大学政治経済学部教養諸学研究会『教養諸学研究』第135、136号併号、2014年3月)をはじめとする学術論文(単著)7篇を完成した。また、国際シンポジウムや学会での研究発表計4回、テレビ出演2回、映画出演1回をつうじて、研究成果を社会に向かって広く発信してきた。多くの研究成果をもって、2015年度日本映画ペンクラブ賞・奨励賞を受賞したのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

、劉文兵「満州映画史研究に新しい光を

“満州国”における日本映画上映と受容の実態」、『専修大学社会科学研究所月報』2015年9月号、1~16頁

、劉文兵「共鳴と共闘——冷戦時代の日中映画交流」和光大学芸術学部『芸術学部紀要』第15号、2015年3月、43~60頁、査読あり

、劉文兵「中国における高倉健のイメージの形成と受容」、『青土社』『ユリイカ』2015年2月号、2015年1月、188~196頁、査読なし

、劉文兵「高倉健はなぜ中国で『熱烈歓迎』されたのか」、『文芸春秋社文春ムック』『高倉健』、2015年1月、200~210頁、査読なし

、劉文兵「愛されたプロパガンダ——日中文化交流と李香蘭」、『毎日新聞』2014年10月23日夕刊

、劉文兵「日中テレビ交流史の幕開け

初の日中合作テレビドラマ『望郷の星
長谷川テルの青春』試論、早稲田大学政
治経済学部教養諸学研究会『教養諸学研
究』第135、136号併号、119～142頁、
2014年3月、査読あり

、劉文兵「映画のなかの『満州国』 「啓
民映画」における植民地的眼差し」、『日本植
民地研究』NO.25、2013年6月、22～39
頁、査読あり

〔学会発表〕(計 4 件)

、劉文兵「『表現せよ』と『表現してはな
らない』のはざままで 中国の抗日映
画・ドラマの戦争表象における抑圧の問
題」、国際シンポジウム「表象されること
/されないこと 東アジア人文学への
新たなアプローチ」、名古屋大学(愛知
県名古屋市)2016年1月30～1月31

、劉文兵「戦中の上海における日本映画の受
容」、第一屆台湾及亞洲電影史國際研討會(第
一回台湾・アジア映画史に関する国際シンポ
ジウム)、台北芸術大学、台北(台湾)、2015
年10月31日

、劉文兵「1980年代の中国社会に残した
日本映画の影響 “身体”を切り口に」、現代
中国学会、神奈川大学(神奈川県横浜市)、
2014年10月25日

、劉文兵「中国の抗日ドラマと日中の歴史
表象の可能性」、表象文化論学会第八回研究
発表集会、東京大学(東京都目黒区)2013
年11月9日

〔図書〕(計 4 件)

、劉文兵『日本電影在中国』(中国語)、中
国電影出版社(北京)、2015年2月、1～318
頁

、劉文兵『中国映画の熱狂的黄金期 ある
映画少年の80年代中国映画回顧論』(韓
国語)、Ji-Young 訳、sanzini 出版社(韓国)、
2015年1月、1～349頁

、共著、劉文兵ほか8名『学芸の環流
東-西をめぐる翻訳・映像・思想』、
専修大学出版局、2014年3月(劉文兵、
論文「中国におけるハリウッド映画の
受容史」、355～425頁)

劉文兵『中国抗日映画・ドラマの世界』、
祥伝社新書、2013年10月、1～220頁

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

劉文兵(LIU, Wenbing)

東京大学・総合文化研究科・学術研究員

研究者番号：70609958

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：